# ミノキシジル

発毛促進薬 (外用)

#### — 代表的な OTC 薬 ——

・リアップ、リアップレディ (大正製薬) (いずれも、ミノキシジル 100mL 中 1.0g)

**効能・効果** 壮年性脱毛症における発毛、育毛、脱毛の進行予防

**用法・用量** 成人 (20 歳以上) に対し、1日2回、1回1mL (ミノキシジルとして 0.01g) を、脱毛している頭皮に塗布。少なくとも6ヵ月間は使

用を継続する。その後は、脱毛の進行予防効果を維持するために継 続して使用する。

受診勧奨

・壮年性脱毛症以外の脱毛症(円形脱毛症や甲状腺疾患による脱毛 など), 原因のわからない脱毛症

- ・1年間使用しても改善(脱毛状態の程度・生毛,軟毛の発生,硬 毛の発生,抜け毛の程度がみられない)がみられない場合
- ・使用開始後1年以内に,脱毛の悪化(頭髪以外の脱毛,斑状の脱毛,急激な脱毛)がみられた場合

個別療法

- ・女性: 壮年性脱毛症は、男性よりは発生頻度は少ないが女性にも みられるので、治療対象となる。
- ・妊婦:安全性は未確立。また、妊娠や出産に伴う脱毛は壮年性脱毛ではないので効果はない。
- ・授乳婦:ミノキシジルは母乳中に移行するため、使用は避ける。

あるいは授乳を避ける。

- ・避妊用ピルの使用を中止, 急激なダイエットをした人: 脱毛症状がみられた場合には、壮年性脱毛症ではないので効果はない。
- ・高齢者: 壮年性脱毛は、青壮年にみられる脱毛(通称若はげ)であり、65歳以上の高齢者では使用経験がなく、効果は未確立
- ・未成年者:20歳未満の未成年者には使用しない(使用経験がない)。
- ・高血圧、低血圧のある人:血圧に影響を及ぼす可能性がある。

副作用 (有害事象)・初期 症状・対処法 ①過敏症:頭皮の発疹・発赤、かゆみ、かぶれ、ふけ、局所熱感

②精神神経症:頭痛、めまい、

③循環器系:胸痛,頻脈

④代謝系:原因不明の体重増加. 手足の浮腫・むくみ

以上①~④は、使用を中止、医師又は薬剤師に相談



適量は、1日2回、1回1mL。多量に使用しても、頻繁に使用 しても効果の増加はなく、副作用の発現する可能性が高くなる。

使用を中止、医師又は薬剤師に相談

## 相互作用

特になし。他の育毛剤及び外用剤の頭皮への使用は避ける[吸収に影響を及ぼす可能性がある]。

### 作用機序

ミノキシジルは、米国において1970年代後半に経口血圧降下薬として使用されていた。しかし、その副作用として全身の多毛症が多発することから、頭皮に対する外用発毛促進薬として臨床試験が実施され、その有効性が認められた。米国では、医療用医薬品として認可され、その後スイッチ OTC 薬となったが、日本では、大正製薬からリアップがダイレクト OTC 薬として発売された。

正常なヘアサイクル (毛周期):髪は成長期で新しく髪が作られ十分に成長し,成長が鈍くなる移行期を経て,休止期で自然に抜け落ちるというサイクルを繰り返す。

- \*ミノキシジル(リアップ)の効果
  - ・ミノキシジルは、成長期を延長させる。
  - ・壮年性脱毛症(男性ホルモンによる脱毛症)にのみ有効である。

ミノキシジルは,毛細血管を拡張させ,頭皮の血行を促すとともに,毛母細胞にも直接作用する効果がある。

### 〈参考1〉 ----- (ミノキシジル)

#### 禁忌・慎重投与

①未成年者 (20 歳未満) (禁忌) ②壮年性脱毛症以外の脱毛症 (禁忌) ③急激な脱毛, 斑状に抜け毛がみられる場合 (禁忌) ④家族, 兄弟姉妹に壮年性脱毛症がいない人 [壮年性脱毛症は遺伝的要因が大きいと考えられているため] ⑤薬や化粧品によるアレルギー反応が現れた人 ⑥心臓や腎臓に障害のある人 ⑦甲状腺機能障害 (甲状腺機能低下症, 亢進症) ⑧むくみのある人

**〈参考2〉 医療用医薬品(プロペシア)**(成分名:フィナステリド)について ① II 型  $5\alpha$  レダクターゼ酵素を阻害し、ジヒドロテストステロンの活性を抑制すること によって、男性型脱毛を予防する。II 型  $5\alpha$  レダクターゼ酵素は、男性ホルモンを、髪の 成長を妨げるジヒドロテストステロンに変換する酵素である。

- ②体内のテストステロンレベルを上昇させる。
- ③フィナステリドの効果発現には、3ヵ月以上の服用が必要
- ④ミノキシジルとの併用は、単独効果より有効と考えられている。

# 一役立つ知識

#### 壮年性脱毛症とは

- ・徐々に進行する遺伝性の薄毛,抜け毛である。普通頭髪は、2~7年程度かけて、 太くしっかりとした髪に成長するが、壮年性脱毛症では、その成長期間が短くなってしまうため、細く短い毛になってしまう。20歳代から発症する例もある。
- ・遺伝的要因が大きいため、家族や親族に牡年性脱毛症がいる場合が多い。